

Glocal Tenri



2

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.21 No.2 February 2020

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
話一条
／堀内みどり..... 1
- ・ 日系移民の歴史にみる天理教の北米伝道の様相 (36)
現代の北米日系人と天理教①
／尾上貞行..... 2
- ・ 日本語教育と海外伝道 (19)
日本語教育でのコンピューター利用について②
／大内泰夫..... 3
- ・ キルケゴールで読み解く 21 世紀 (17)
最も不幸な者は最も幸福な者—自由なるがゆえのパラドックス—
／金子 昭..... 4
- ・ 伝道と翻訳—受容と変容の“はざま”で— (21)
仏典翻訳の歴史とその変遷④
／成田道広..... 5
- ・ コロンビアへの扉—ラテンアメリカの価値観と教えの伝播— (8)
3. コロンビアにおける日本人移民の話—その3
／清水直太郎..... 6
- ・ 遺跡からのメッセージ (54)
弥生時代を再考する⑥ 時代の荒波を受けた綾羅木郷遺跡
／桑原久男..... 7
- ・ コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッパ関係誌論 (31)
マリアン・ングアビ大統領
／森 洋明..... 8
- ・ 天理参考館から (19)
こけしと天理
／幡鎌真理..... 9
- ・ ヴァチカン便り (42)
念願の日本訪問
／山口英雄.....10
- ・ おやさと研究所ニュース.....11

第 327 回研究報告会 (遠藤正彦) / 第 328 回研究報告会 (芹澤知広) / 宗教研究会を開催 (海野典子) / 『グローカル天理』年間購読のご案内 / 天理ギャラリー第 169 回展の案内 / 2019 (令和元) 年度「教学と現代」の案内 / 2020 年度公開教学講座の案内 /

巻頭言

話一条

おやさと研究所主任 堀内みどり Midori Horiuchi

巻頭言をしばらく担当することになった話です。人間があれこれと“神様について”する話というわけではないのですが、新年度からは、従来のように所長担当の運びとなりました。残り 2 回となり、個人的に気になっていた「話一条」と「聞きだすけ」ということに触れてみたいと思います。

「こふき本 (「こふき話」に関連した教理の記録)」は、

神のゆうことわしんしつとをもてねかゑば、おかみきとふや、くすりのまいでも、はなしいちしよふでみなたすかること、これしよふこなり。(16 年榊井本、『こふきの研究』139～140 頁) と記しています。「はなしいちしよふ (話一条)」で「みなたすかる」ので、それが神の話が真実である「しよふこ (証拠)」だということです。ではこの神の話、話一条の話の内実、また「話一条でたすかる」とはどういうことなのでしょう。「おさしづ」を頼りに少し思いを巡らしてみます。

明治 21 年 11 月 2 日 (陰暦 9 月 29 日) の「本席身上障りに付願」では、「身の障り尋ねるまでやない、いつまでも身の障りぐらい尋ねるではない。……身の障りと話一条思やんして見よ。……これからはこの話通りにするは神の道や。」と言われ、明治 22 年 11 月 20 日の「おさしづ」では「話一条の理、身が速やかになる。」(諸井その三十三才身上障りに付伺) と説かれます。

そして、「この話一条に凭れ、外なる事は要らん。」(22.5.12)、「話一条、話人間拵えた時の話、」(22.9.19)、「紋型も無い処からしんばしらと、話一条で固め来たる。」(24.11.1)、「人体借りて来る事情これ難しい。よう聞き分け。これまで話一条述べたる事情、理と言う、」(26.10.16) と教えられます。これらのことから「話」は、親神がなされた話、つまり教祖が話

された話です。人間があれこれと“神様について”する話というわけではないのです。人間創造 (人間拵えた時の話)、(人体) 借りものことなど、この「話」通りに進むことが「神の道」を歩むことができると言われる「話」なのです。

さらに「おふできき」で、これからハナにはなしをするならばかんろふだいはなし一ぢよ (9:44) と歌われていることを考え合わせると、親神や教祖がされた「話」は「たすけ (救済)」の元であることが明瞭になってきます。人間がその「話」を信じて「凭れる」ことができる「話」であるから、「たすかる」ということなのです。

こうして親神からの「話」は、「お論し」や「おさしづ」の教理の土台であり、この「話」が基となって、教理が展開していくと理解できます。

一方で、「悟りが分からんから尋ねにやならん。たすけ一条の理は渡してある。話一条は論しある。何度聞いても分からん者理はどんならん。……かりものへ言うては居れど、かりもの理が分からん。」(23.6.17) とも言われ、「分からんにや尋ね来るがよい。」(24.11.1)、「分りなくば分かる処まで尋ね。」(23.6.17) と叱咤もされます。

親神から“一条に”来た話を、人間が“一条の”心で学び、心にすっきりと治めることが求められてきます。前掲明治 22 年 9 月 19 日の「おさしづ」は、「話一条、話人間拵えた時の話、」に続けて、「一人処どうある。一つ余儀無き事情である。どちらでも案じる事は要らん。案じるといふは、真に受け取る理が分からんから案じる。」と論されます。分からないことはとことん原典に尋ね、案じることなく、親神の話に凭れることができるよう、日々研鑽に励めることを願います。

現代の北米日系人と天理教 ①

おやさと研究所講師
尾上 貴行 Takayuki Onoue

本連載では、北米地域における日系移民の歴史的視点から、アメリカ合衆国とカナダでの天理教の歴史と展開をみてきた。北米の西海岸やハワイに形成された日系コミュニティで、19世紀末に伝道を開始した天理教は、現在も在住する日系人や日本人と密接な関係を持っており、その伝道の今後の展開を考える上で、日系コミュニティの現況を知ることは不可欠である。そこで今回は、現代の北米地域に在住する日系人と日本人、また彼らの形成するコミュニティの特徴についてみてみたい。

アメリカの日系コミュニティ

アメリカ合衆国の2000年の国勢調査によれば、全米の日系人口は1,148,932人で、州別に見ると多い順からカリフォルニア州394,896人、ハワイ州296,674人、ワシントン州56,210人、ニューヨーク州45,237人、テキサス州28,060人、イリノイ州27,702人であった⁽¹⁾。日系人は、戦前と同様に西海岸に多く在住する一方で、その他の地域にも散在するようになっている。

戦後のアメリカ日系コミュニティは過渡期にあるといわれて久しい。戦中から戦後にかけて、コミュニティの指導的役割が1世から2世へと受け継がれ、現代では3世以降の世代が中心的役割を担っている。しかし、アメリカ社会で生まれ育った若い日系人たちは、他の日系人や日本との繋がりが希薄な場合もあり、コミュニティの意義を見出しにくくなっている。アメリカ本土では西部、中部、東部といった地域的な相違があり、日系人が多く在住するカリフォルニアとハワイにおいても、州総人口に占める割合が前者の1.2%に対し、後者は24.5%であるなど⁽²⁾、本土とハワイという違いもある。他人種や民族の人々と婚姻も進んでおり、アメリカの日系人たちは、さまざまなアイデンティティをもった人々を含む、多様で多重なコミュニティを形成するようになった。

アメリカ社会では1960年代の公民権運動以降、アフリカ系、ヒスパニック系、アジア系などのマイノリティ集団の社会的地位が向上し、人種や民族の垣根を超え、異人種や異民族間での婚姻が進んでいる。こうした社会環境の中で生まれた日系人の存在は、日系コミュニティの定義を複雑にし、またその存在意義を問い直すものになっている。人種や民族は、他人が規定するものではなく、自分が選択する時代であるといわれるが、日系人であるということも、血のつながり、身体的特徴、「常識的な」日本文化を有するといった考え方では判断することが出来ず、自らがいかに自己を定義するか、他の日系人との繋がりを認識するかという各自の意識の問題であると考えられる。グローバル化が進み、文化多元主義という概念が展開している現代の北米社会において、日系コミュニティもそのあり方を変化させ続けているといえる。

外務省領事局政策課の『海外在留邦人数調査統計』令和元年版によると、2018年10月1日現在、海外に3ヶ月以上在住している日本国民数は、多い順に、1. 米国446,925人、2. 中国120,076人、3. オーストラリア98,436人、4. タイ75,647人、5. カナダ73,571人となっている。都市別で見ると、ロサンゼルス都市圏は全体の1位で68,823人、3位ニューヨーク都市圏47,563人、10位サンフランシスコ都市圏19,255人、12位ホノルル17,060人であった。アメリカやカナダに長期滞在する日本人は多く、両国とも日本と関わりの深い国であることがわかる。

終戦後、日本に駐屯していたアメリカ軍人と結婚した日本人

女性が多数渡米し定住したり、1965年の移民法改正で人種や出身国による差別が撤廃され、企業駐在者、技術労働者、家族移民として渡米したりすることによって、アメリカに在住する日本人が増加した。こうして戦後アメリカに定住した日本人たちはしばしば「新1世」と呼ばれ、日系コミュニティに新たな要素を加えることとなった。日本企業の駐在員とその家族たちの中には、既存の日系コミュニティとは別にネットワークを形成している姿もみられる。あるいは明確なコミュニティを形成せずに生活していることもある。移住した地域に適応、同化しながらも、アメリカと日本を頻繁に行き来し、日本社会と強固な繋がりを保持したまま生活している日本人たちも多く見られる。祖国の社会的・文化的習慣や価値観を有するトランスナショナルな存在として、このような日本人がアメリカ社会の一員を構成していく中で、既存の日系人たちとどのように交流を深め、新たなネットワークを構築するのか、またアメリカ社会や日米関係にも影響しうる存在となるのか注目される場所である。

カナダの日系コミュニティ

カナダの日系人も多様化している。カナダ政府による2011年の国勢調査では、日系人は109,740人（そのうち約半数の54,840人は他民族系との混血）であった⁽³⁾。戦中の強制収容と戦後の拡散政策により、戦前は西海岸に集住していた日系人たちが中部や東部に移住した結果、現在では地理的に分散し、社会階級、経歴、文化的・社会的背景も異なってきた。またカナダの日系人は他人種・他民族系の人を配偶者とする傾向が強いといわれる。そのような中、戦争で破壊された日系人コミュニティを再建したり、あるいはネットワークを再構築したりする動きがある一方で、その意義を見出せない人々もいる。

1952年以降、日本からの移民が再開され、1960年代に移民法が改正されると、日本からカナダへ移住する人々が増加した。その多くはバンクーバーやトロントなどの都市部に在住している。『海外在留邦人数調査統計』令和元年版によると、2018年10月1日現在、カナダに在留する日本人は73,571人であり、そのうちバンクーバー都市圏は28,281人（全体の38.4%）であり、在留邦人数の都市別では8位、トロントは13,499人（全体の18.3%）で都市別で15位となっている。新たに移住した日本人たちも、他民族の人々との婚姻や世代交代が徐々に進んでいるとされる。

こうした中で、日系人や日本人のコミュニティも多様化し、カナダ社会における日系人、エスニック・アイデンティティ、コミュニティのあり方も模索されている。

[註]

- (1) 在ロサンゼルス日本国総領事館 https://www.la.us.emb-japan.go.jp/web/m07_top.htm 「日系人社会」（アクセス2020年1月5日）。
- (2) 同上「南カリフォルニア概況」より筆者算出、及び中鉢奈津子「ハワイ日系人社会の特徴」『外務省調査月報』2007年度／No.4（外務省第一国際情報官室、2008年）34頁。 https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/pub/geppo/pdfs/07_4_2.pdf（アクセス2020年1月5日）。
- (3) 2011 National Household Survey: Data tables, Ethnic Origin (264), Single and Multiple Ethnic Origin Responses (3), Generation Status (4), Age Groups (10) and Sex (3) for the Population in Private Households of Canada, Provinces, Territories, Census Metropolitan Areas and Census Agglomerations, 2011 National Household Survey. Source: Statistics Canada, 2011 National Household Survey, Statistics Canada Catalogue no. 99-010-X2011028. <https://www12.statcan.gc.ca/nhs-enm/2011/dp-pd/dt-td/Rp-eng.cfm?LANG=E&APATH=3&DETAIL=0&DIM=0&FL=A&FREE=0&GC=0&GID=0&GK=0&GRP=1&PID=105396&PRID=0&PTYPE=105277&S=0&SHOWALL=0&SUB=0&Temporal=2013&THEME=95&VID=0&VNAMEE=&VNAMEF=>（アクセス2020年1月5日）。

日本語教育でのコンピューター利用について ②

コンピュータールームの整備

天理教語学院には、1994年の開校後まもない時期にコンピュータールームが設置されていた。しかし、これは大阪のある専門学校から譲られた旧式のものだった。機種は確か NEC の PC9800 シリーズだったように記憶している。5 インチフロッピーを使うものであったが、その頃はもうすでにフロッピーは 3.5 インチが主流で、CD ドライブが標準で付いている時代には使えるものではなかった。それだけでなく当時、職員が個人的



写真1 PCルームで指導中の筆者

に持っているパソコンも公用で使われているパソコンもほとんど Apple 社製の Macintosh だったので、誰でも操作できるようなものではなく、パソコンが並んだ

教室ではあったが、ほとんど利用されない状態であった。また当時は、システムは Windows95 の時代であり、Macintosh は漢字 Talk7.5 の時代で、CPU は「68 系」から「PowerPC」という形式に変わった頃であり、しかも Macintosh は新しい時代に入ったところであった。現在とは比較にならない性能であるが、その頃では最新だった。

当時、天理教海外部では多言語に対応していて、だれもが容易に操作できるパソコンはやはり Macintosh であり、留学経験のある職員が積極的に Macintosh を導入していたこともあって、職員全体にアンケートを取っても、導入するならやはり Macintosh がいいという意見が多かった。しかし、いざコンピュータールームにそれらの機器を購入となると、不満もあったようだ。職員が古いパソコンを使っているのに、学生に最新のものをを使わせるのか、あるいは予算に見合った学習効果があるのかなどの声も筆者の耳に入って来ていた。しかし、最終的には当時の永尾信雄校長の判断でコンピュータールームを整備していくことになった。当時、日本語教育センター主任だった渡辺治則元校長と話をしていたことだが、勉強会や研修会に足を運んでいろいろ研究しても、実際にやってみなければわからないことも多く、まずはコンピュータールームを整え、試行錯誤を繰り返していかねばならなかった。また実際にコンピュータールームのある日本語学校も見学したいと思い、いろいろ調べ、すでにコンピューターを導入している東京日本語学校（長沼スクール）や海外技術者研修協会関西研修センターにも出かけて、実際に見せていただいた。担当者の方にもいろいろ質問し、どのように活用しているのか話も聞いてきた。

どのようにコンピューターを利用するのか

当時、日本語教育でのコンピューター利用についての先行研究を調べてみると、CAI (Computer-Assisted Instruction) や CALL (Computer Assisted Language Learning) という考え方が多くを占め、授業の中にコンピューターを導入している例もあるようだった。しかし、授業の中といてもどんな活動の中でコ

ンピューターを介在させていくのか、やはり試行錯誤していかねばわからない状況でもあった。教師の代りを務めるティーチングマシンのような使い方をするのか、あるいは教師がやろうとしている活動を支援する形で導入するのかなど、研究しなければならないことは多かった。これらについては「日本語教育での有効なパソコン利用」(放送大学大学院修士論文：2005) という論文にまとめた。語学院では、日本語を学んでいく上でコンピューターがその学習を支援するという形で導入することにした。

しかし、方向性は決まっても、問題は次々と起こった。コンピュータールームを整備して新しい機械を購入しても、すでにある校内のインターネットへの接続はセキュリティの面から繋ぐことはできないため、独自に回線を引かねばならず、その手続きも大変であった。まだ光ファイバーもない時代で、電話回線を利用した ADSL が主流になりつつある頃である。結局、インターネットに繋ぐまでかなり時間を要した。またウィルス対策、パソコンのフリーズなど機器のトラブルや、学生のコンピューターリテラシー (コンピューターを操作するための知識) の不足など、次々といろいろな課題が出てきた。

コンピューターリテラシー

クラスにはマウスやキーボードに触れたことがない学生もいれば、すでに個人的に使いこなしている学生もいた。しかし、日本語を入力するという点では誰もが経験のないことなので、入学して初期の段階



写真2 タイピングソフト OZAWA-KEN の画面

では、まずは日本語キーボードやマウス操作に慣れることから始めた。ソフトは「OZAWA-KEN」というタイピングゲームソフトを使った。このソフトは現在ゲームソフトクリエイターである比護賢之氏が開発したタイピングソフトで、東京工科大学在学中に開発したフリーソフトウェアである。対戦形式でレベルごとに文も長くなり、1～5のレベルがある中で、3レベルくらいまでをクリアできるように練習をさせた。4、5レベルになると数字や特殊記号なども入るので、日本人でもクリアするのは難しい。これは非常に効果が高く、対戦ゲームということで学生の反応もよく、熱中するほどに日本語を速く正確に打てるようになった。

こうして短期間のうちに日本語入力ができるようになった頃、チャットソフトを使って、教室で習った日本語を使って、お互いにチャットをすることにした。これらの活動が後に大変役に立った。発表のレポートを Word でまとめたり、外へ出てアンケート調査をするための用紙を作成したり、卒業してから日本語でメールを作成する基礎になったからである。学生がゲーム機に親しんでいるような世代であり、勉強しているという意識ではなく、楽しんでいる間に自然に日本語のタイピングを習得できるということだ。本来、学習というのはそうあるべきだとも思うが、苦になりがちな練習や訓練を積極的に楽しみながらできるようにすることが機械を導入する意義ではないだろうか。

「最も不幸な者」はどこにいるのか

イギリスのどこかに、「最も不幸な者」という墓碑銘が刻まれた墓があるという。人々がこれを掘ったところ、屍体の痕跡すらなかった。この墓に埋められた者はどこにいったのか。こんな不気味な出だしで始まる挿話的物語が、『あれか、これか』の中にある。標題は必ず「最も不幸な者」である。

最も不幸な者とは何者なのか？ また何をもって最も不幸であると言っているのか？ どうして墓の中がからっぽだったのか？ そしてなぜ人々は墓を暴こうとしたのか？ 舞台は真夜中の「共に死んだ者たち」の集会の場である。そこで、最も不幸な者を探し出し、その栄誉を与えようとする、世にも奇妙な選挙権が繰り広げられる。この不思議な物語は、埴谷雄高が若き日に読み、後年の『死霊』に深い影響を与えたものだ。

自分は不幸であると思う人々は数多く、時に世界で一番不幸だと思う人々も少なくない。しかし、彼らが不幸だと思う範疇はここでは当てはまらない。たった一言で群衆は消え去る。死を最大の不幸だと思い、死を恐れるがゆえに不幸になった者は、すべて除外されるからだ。死は決して不幸ではない。いや、むしろ死には永遠の安静があるがゆえに、死は生からの解放や救いなのである。それゆえ、最も不幸なのは、死の中に平安を見出せず、死ぬということができない者である。墓がからっぽだったのは、そのことを端的に示している。

キルケゴールは独特の時間論を展開して、不幸な者を次のように定義づける。不幸な者は現在を生きることができない。かといって、希望を通じて未来に生きることができない。さらにまた、回想を通じて過去に生きることができない。現在、未来、過去のいずれの時間にも生きることができない者こそ、最も不幸な者なのである。そのため、彼は生きることができず、かといって死ぬこともできないがゆえに、永遠にこの世を彷徨わなくてはならないのである。

現在を不幸にするのは、確かに運命の一撃である。しかし、人から未来の希望も奪い、過去の回想をも閉ざしてしまうことがあるのは、なぜなのだろうか。それはこういうことだ。人はしばしば、希望すべきものを回想し、回想すべきものを希望してしまう。そのような場合、いくら希望や回想をしてもそこには何も見当たらず、結局その人は不幸になるのである。例えば、幸福な幼年時代を持たなかった人が教師になった場合がそうである。この教師が子供たちの中に幼年時代におけるあらゆる美点を発見して、自分の幼年時代を回顧しようとする。しかし、自分にはそのような幼年時代などどこにも見当たらない。こういう時に、不幸が形成されるのである。

「最も不幸な者」の物語では、不幸な者の類型として、ギリシャ神話から、自分の子供を全員殺され後に岩に化せられたニオベや、オイディプス王と彼の実の母親である妃の娘のアンティゴネなどが紹介される。また聖書からは、義人の苦しみでよく知られたヨブのほか、放蕩息子の父親やユダと思われる人物が登場させられる。しかし、何といても最も不幸な者は、死ぬことがかなわず、この世を永遠に彷徨い続けるあの人物である。物語の中では「永遠のユダヤ人」と示唆されているだけであるが、アハスヴェルスという名前を持つこの人物こそ、キルケゴ

ールの思想全体を解く鍵となる文学的形象なのである。しかし、ここでは、「最も不幸な者」の作品に即して、その驚くべきパラドキシカルな姿を明らかにしてみたいと思う。

アハスヴェルス—不幸のパラドックス

中世ヨーロッパに生まれた、これもまた不思議な伝説である。アハスヴェルスはエルサレムの靴屋だった。彼は、ゴルゴタの丘に十字架を担いで行くイエスが家の前で休もうとした時に、これを拒否した。イエスは、「それでは私は行くが、お前は永遠にとどまるであろう」と言ったという。アハスヴェルスはそのため死ぬことができなくなり、永遠にこの世を彷徨い続けることになる。彼は後年、イエスの墓の番人となって巡礼者たちの案内人になったとも伝えられる。キルケゴールは、彼を精神の次元でキリスト教に反抗する文学的形象として、絶望を体現した人物だとみなした。実を言えば、キルケゴール自身がそのようなアハスヴェルスの自意識を持っていたのだった。

しかし、「最も不幸な者」の物語は、最後になって意外な展開を見せる。そもそも、なぜ「共に死んだ者たち」は、最も不幸な者を探して栄誉を与えようとするのだろうか。それは、最も不幸な者が彼らにとって最も羨ましい者、すなわち最も幸福な者であるからではないか。死んでしまった者にとっては、どんな姿であれ生きている者こそが最も幸せであろう。永遠のユダヤ人と目される、最も不幸な者への礼賛の演説の中で、そのことが図らずも暴露されてしまう。かくして、「最も不幸な者をほかにして、だれが最も幸福な者であろうか？ 最も幸福な者をほかにして、だれが最も不幸な者であろうか？」という絶叫が、死の世界の静寂に反響する。

キルケゴールは後年、『あれか、これか』などの仮名による美的著作をすべて詩的な排泄であると、自ら切って捨てるかのような言い方をしているが、しかし書かれた作品はそれ自体として自己主張を行っている。いかなる作品も作者の思いとは独立だと見なすのが作品論的な見方である。それは、「最も不幸な者」の物語を読んでも分かる。この作品では、最も不幸な者は最も幸福な者として断固異議申し立てをしているのである。

キルケゴールは、イスラエル・レビンというユダヤ人秘書を雇っていた。ある時、彼はレビンに向かい、こう語ったという。君はユダヤ人として、キリストに対して自由だから幸福であると言ってよい、と⁽¹⁾。キルケゴールにとってキリスト教の真理は決して揺るがないものであったが、それに生きることが幸福か否かについては、彼はどこまでもその矛盾に悩み続けたのだった。

現在、未来、過去のどこにも居場所がないとすれば、確かにそれは最も不幸なことであろう。だがこれは裏を返すならば、現在、未来、過去のどこにでも行くことができるということだ。それゆえ、これは最も幸福なことではないか。そのことは、まさに人間の精神が自由である証しなのである。不幸と幸福のパラドックスとは、人間が精神であり、そして精神の本質が自由にあるがゆえに起こり得るものなのである。

[註]

ヨハネス・ホーレンバーヤ『セーレン・キルケゴール伝』(大谷長他訳、ミネルヴァ書房、1967年)、54頁。

仏典翻訳の歴史とその変遷 ④

渡来僧と訳経

ガンダーラ地方で発見された現存最古の仏典写本の断片には、伝統部派の写本とともに『般若経』など大乘のものとしてされる写本も含まれていた。それらの断片は炭素年代測定法により前1～8世紀ごろのものであると判明した。同じ地域から部派仏教と大乘系の写本断片が発見されたという事実は、大乘教理がその起源から大衆部、説一切有部、法蔵部などの伝統部派の出家者らによって伝承されていた可能性を示している。調査を行ったリチャード・ソロモンは、暫定的ではあるが、大乘は主流の仏教と共存し、伝統部派の内部に存在していたと結論付けている (Allon and Salomon, 2010: 11-22)。

伝統部派は釈迦の遺訓に基づく律蔵を踏襲し、出家者の生活全般を規定していた。中国仏教における律蔵の欠如を嘆く多くの中国人僧らは、インドに大乘教団の存在とその律蔵を想定し、大乘律を求めてインドへ渡った。そのうちの一人、法顕 (339～420) は399年に長安を出発しインドに辿り着いたが、大乘律を発見できず、大衆部の律蔵を大乘の寺院で入手し持ち帰った。そのことから、大乘教理が主流の僧院内でも伝統部派に属する律蔵が踏襲されていたということがわかる。おそらく当時、インドにおいて律蔵は未だに律師による口伝によって伝承されることが多く、大乘教団そのものも未だ独立した教団として確立していなかったため、独自の律蔵を有していなかったとも考えられる。また、671年に海路でインドに向かった義浄は、『南海寄帰内法伝』に「四部之内、大乘小乗区分不定」と記しており、その記述から、伝統教団内における大乘と小乗 (部派仏教) の区別が明確ではなく、大乘が組織としてではなく思想として伝統教団の内部で広まっていたと推測できる。小乗とは、伝統部派側が自称したわけではなく、大乘から見た蔑称であり、法顕や義浄をはじめ中国人僧らが大乘を重要視していたことがわかる。

中国では紀元前後にすでに大乘教団が組織化され、初期の頃から仏典の漢訳が行われていたようだ。インド系諸言語を直接理解できない中国人仏教者にとって、仏典漢訳は必要不可欠であった。

文献学的には、大乘経典が創作された1、2世紀には、中国において既に訳経が開始されていた。大乘経典創出と漢訳の時期が重なっているということは、漢訳仏典には、インド周辺で発見されている最古の仏典よりもさらに古い教理などを反映している可能性すら想定できる。したがって、プラークリットやサンスクリットの仏典だけを原始仏典と称するのは誤謬であるといえよう。大乘仏教の組織化が中国においてインドより早く進んでいた事実などを考慮すると、インドから中国へという流れだけではなく、逆に中国からインドへの思想的な影響をも再考する必要があると思われる。

そのような背景から、近年、古代漢訳仏典の再評価がなされている。インドと中国は距離的にも文化的にも大きな隔たりを有している。その隔たりを乗り越える媒体となったのが訳経であった。仏教東漸の後、漢訳によって古代インドの仏教思想は中国に橋渡しされ、両地域の思想交渉が始まった。

中国における仏教伝来は、後漢の永平10年 (西暦67年) とされているが、実際にはさらに古く紀元前後であったようだ (水野, 1990: 130)。とはいうものの、伝来当初は中央アジア

からの移民や商人がその担い手であったと思われる。おそらく彼らは中国でも母国語である西域の諸語で教理を理解し信仰していたが、二代三代と代を重ねるうちに、母国語での意思疎通が次第に困難となり、中国語による教理伝承が必要になったのではないかと考えられる。さらに彼らが代を重ねたその頃には、仏教に対する関心がすでに漢人にも広まり、仏典漢訳がますます要請される事態となった。仏典漢訳の濫觴には、中央アジアからの渡来人の世代間信仰伝承と、漢人の仏教理解の切望という二つの要因があったと考えられる。

漢訳とは文字通り古典漢語に翻訳することを意味する。伝統説によると、中国における漢訳は後漢の明帝の永平年間の洛陽における撰摩騰訳『四十二章経』から始まったとされる。撰摩騰は、カーシャパ・マータンガというインド人の名前の漢訳である。しかしこの説は神話の域を出ず、史実としては桓帝 (在位146～167) の時代に洛陽で訳経をはじめた安世高が最初の漢訳者であると考えられている (船山, 2015: 22-24)。

安世高の安は安息国 (パルティア) 出身を意味する。彼は安息国王の正后の子で、幼少期から諸学に優れ、超人的な才覚の持ち主であったという。安息国はイラン系の国家で当時から中国と交易が盛んであった。彼は王位を捨て出家修道し、中国へと渡り訳経僧として活躍した。安息国ではイラン系言語のみならず、インド諸語も用いられていたため、彼はインド諸語の仏典に精通し、また、中国語の知識も多少あったようだ。まさに、仏典漢訳には最適の人物であった。しかし、未だ中国人の仏教の知識は乏しく、漢訳の際、中国人協力者の教理的言語的サポートもたよりないものだったと思われる。さらにインド諸語と中国語という言語的な相違も影響し、彼の翻訳には様々な変遷と紆余曲折がみられる。たとえば、同一の術語に対して様々な訳語が充てられ、翻訳上の混乱があり、漢訳の困難さと彼の苦心が容易に読み取れる。ただ、後に編纂された『高僧伝』などでは、彼を神秘的な聖人として尊崇する描写が多く、彼の貢献は後代の訳経僧にとって大きな励みとなったと考えられる。特に不翻訳語を必要最低限にして、理解しうる翻訳を心掛け、積極的に漢語への変換が試みた努力が垣間見える。その結果、教理解釈の面で後代の訳経僧に大きな影響を及ぼしたようだ。彼は大乘経典成立以前の伝統的な経典を多く翻訳しており、文献学的にも初期大乘仏教との関連性が注目される。

このように中国における訳経は、漢人ではなく、まずインド諸語に精通した安世高など西域からの渡来僧によって始まったとされる。地理的にも文化的にも大きな隔たりを有する両地域をつなぐシルクロードに位置する西域の出家者らは、伝道の媒体として身命を擲つ覚悟をもって中国へ渡り訳経に取り組んだのだろう。彼らの訳文には、異国の地で伝道に生涯を捧げた不惜身命の覚悟とその生き様が刻まれている。

[引用文献]

- 船山徹『仏典はどう翻訳されたのか—スートラが経典になるとき』岩波書店、2013年。
水野弘元『経典—その成立と展開』佼成出版社、1990年。
M.Allon and R.Salomon. “New evidence for Mahayana in Early Gandhara,” *The Eastern Buddhist*, vol.41-1, The Eastern Buddhist Society, Kyoto, 2010.

3. コロンビアにおける日本人移民の話—その3

天理教コロンビア出張所長
清水 直太郎 Naotaro Shimizu

二つの移住地域、南部（カリ・パルミラ市）と北部（バランキージャ市）における日本人移民は、現在ではすでに3世代目、4世代目になっている。北部では5世代目、6世代目も誕生しているかもしれないだろう。

1994年、私は両地域の歴史だけでなく、その後の「日本人の意識と日本に対する感情」についても知りたいと思い、簡略な「世論調査」的な方法で約10人の日系移民の方にインタビューを行った。約25年前の資料であるが、その要旨が次のとおりである。（現在とあるのは1994年当時のこと）

＊「世代交代に見える両地域の日系人における日本と日本人意識調査」（以下、北部バランキージャ日系人はHB、南部カリ・パルミラ日系人はNBと表記）

ほとんどの初期のNBは農業に従事していた。事実、バージェデルカウカ県の農業界での大切な役割を担っていたわけである。1951年に結成されたS.A.J.A.（農業日本人会）も、その後、最盛期を迎え、耕地面積は8,600ヘクタールを超えるようになった。現在は減反しているが、作物の種類は増えている。例えば、豆大豆類、モロコシ属（コウリヤン、キビなど）、サトウキビなどが作付けされていたが、昨今では世代交代があり、後継者や次世代の職業の種類は千差万別である。

証言1（NB）「日本移住民の子供たちは土地の所有いかんによって労働に従事します。所有地が広ければ、子供間で分割でき、農業者としてそれぞれの家庭も養えるでしょうが、土地が狭いなら、次世代は農業以外の職業に従事しなければならないと思います。例えば、会計士、経理士などですが、今日びは良い仕事がそうみつかりません。」

バランキージャの北部移民でも同じような現象が起こっている。さらにコロンビアでは有名大学を卒業しても、良い職業につけるかわからないし、カリ・パルミラでは農業を続けない日系人も出てきている。バランキージャでは、コロンビア人と同様に良い職業には就職できないものである。世界中のどこにでもあることだろうが、コロンビア社会でも「コネと縁故」が良い仕事を手に入れるには必要である。これが現実であり、目に見えないヒエラルキーが存在する複合社会構造なのである。したがって、日本人移民は伝統的に社会的地位が無いため、コロンビアの伝統的な上流階級に社会文化的に適応するには、より年限がかかったのではないかと推察する。

＊日系社会と出稼ぎ

周知のとおり、1980年代のバブル景気という日本経済の好景気により中南米の日系社会からの出稼ぎが始まった。HBでもその例にもれなかった。

証言2（HB）「ここ、バランキージャでは日本人移民の子供の大半は日本に一時的に働きに行きたがったのです。結局私は30人以上も日本に送り出しました。そして1年2年の滞在の後、バランキージャに戻り、多くの人が新住居を構えたり自動車を購入したりしました。」

この証言2の回答者は、私が調査したところのバランキージャの日系人協会の道工^{どく}さんである。このように二つの日系人協会は、夢を実現するために現在でも子孫を日本に派遣し続けて

いる。この現象は日本人移民を受け入れてきた、ブラジル、ペルー、パラグアイでも同様に起こっていた。

20世紀初め、当時日本では戦争が続き、また世界恐慌などで日本経済は悪化、弱体し、国が国民を養えない状態の時であった。国民は少しでも生活を向上させて故郷に錦を飾りたいという夢を抱いて、ラテンアメリカ諸国に移民した。今度はその逆で、子孫たちは利益のある仕事と富を求めて、親や祖父の国へと出稼ぎに旅立って行った。

証言3（NB）「ここに私たちが来た時は、日本文化や習慣はまったくなかったんです。移民の先人たちは、（それらを）維持することなど必要ない、それより早くにコロンビア社会に同化しなければいけない、と考えていました。だから、NBの家庭には茶碗や箸などの日本独自の食器もなければ、日本語も話しませんでした。彼らの子供たちが言語の問題を克服するために、早くスペイン語を習得するようにと願っていたのです。宗教にしても同様です。NBのほとんどの初期入植者は仏教や神道の信心を捨てて、カトリックの信者になったのです。それは子供たちの教育を考えてのことだったようです。なぜなら、洗礼を受けなければ学校へ入学できなかったからです。その後、日本が経済成長を果たし、大国の仲間入りをするようになってから文化や言語を伝承する大切さをようやく見出し、それはすべて祖国日本の状態に依るものだったのです。」

この方は第三次頃の移民だったと思われる。（残念なことに情報提供者の詳細は手元に残っていない。）

ここで特筆する

ことは、日本人意識が国の発展次第とすることである。事実証言者のほとんどが日本人を先祖に持つことを誇りに感じていた。

証言4（HB）「父親は日本文化や言葉を私に教えてくれなかったのですが、日本は良い習慣があります。子孫であることに満足ですし、日本の全てのことが好きです。というのも、子供にも日本の名前を付けるくらいですから。彼らももっと日本語や日本のことを学んで欲しいと思います。」

証言5（HB）「現在はテレビや雑誌で日本をよく聞きます。日本を誇りに感じています。ここの日系移民はとても団結していて良い人ばかりですが、祖母は決して祖父のことを私には話してくれませんでした。」

証言6（HB）「私は日本語を習っていますし、子供たちも勉強しています。もっと日本文化を知りたいです。従姉妹たちは現在日本に出稼ぎに行っていて、私もいつか行こうと思っています。」

証言7（NB）「私自身日本を賞賛しています。良い文化を持っていて誇りにも思います。日本の人たちのもこの文化のお手本のように思います。」



孫たちのみこしと婦人会の炭坑節
出典：『コロンビア移住史五十年の歩み』（コロンビア日系人協会移住50年史編集委員会、1981年）

弥生時代を再考する⑧ 時代の荒波を受けた綾羅木郷遺跡

天理大学文学部教授
桑原 久男 Hisao Kuwabara

本州の西端、関門海峡の北西に広がる響灘に面した下関市の沿岸部には、数多くの弥生時代遺跡が分布している。昭和32年(1957年)、5年間に及んだ土井ヶ浜遺跡の発掘調査(本誌238号参照)が終了し、下関市教育委員会から新たに依頼を受けた金関恕先生は、同年続けて、青銅器を伴う埋葬遺跡として戦前から著名な梶栗浜遺跡の発掘調査を実施した。市史編纂の資料を得る学術的な目的のその発掘調査では、申請や届け出の書類作成から現場調査の実施まで、金関先生が全てを主導し、箱式石棺墓や土器棺墓など9基の埋葬施設が確認された。翌年(1958年)、若宮古墳の発掘調査を行った際には、国分直一先生の紹介で夫人との出会いがあり、昭和35年(1960年)には中ノ浜遺跡、昭和37年・39年(1962年・64年)には吉母^{よしもほま}浜遺跡で、父の丈夫博士とともに弥生時代人骨を伴う埋葬遺跡の発掘調査に携わった。こうして、金関先生と同地の縁はその後半世紀にわたって継続することになる。

吉母浜遺跡の第二次調査が行われた昭和39年(1964年)といえば、ちょうど前回の東京オリンピック・パラリンピックが開催された年にあたる。まさに高度経済成長の只中で、名神高速道路の開通(1963年)、東海道新幹線の開業(1964年)、都市近郊での宅地造成など、全国各地で土地開発が急ピッチで進んだ時代だ。折しも国外では、1965年、アメリカの軍事介入によってベトナム戦争が始まり、自動車エンジンの鋳型に用いるベトナム産珪砂の輸入が止まったため、国内での資源開発が迫られていた。

昭和40年(1965年)、響灘に面した海岸平野に延びる綾羅木郷^{あやらぎごう}台地で良質の珪砂の堆積層が発見され、地権者と契約を交わした業者が開発に乗り出したことで、下関市の遺跡をめぐる状況は一変することになる。綾羅木郷の台地上は、かねて弥生時代の重要遺跡として知られ、珪砂採掘計画の情報を得た下関市教育委員会は、地権者、業者と協議を行い、調査費は市教委が負担し、調査終了後に工事を行うことで合意が得られた。しかし、市教委には調査担当者おらず、予算も極めて乏しい状態だった。国分直一、金関恕の両名が中心となって、大学関係者、学校教員・学生・生徒、市民による「下関始原文化研究会」のメンバーがボランティアで参加して行われた緊急の発掘調査は、業者の採掘予告に急ぎ立てられながら連年にわたって行われた。遺跡のある台地は、山陽新幹線の新下関駅からほど近い場所にあるが、当時は新幹線がまだ開通しておらず、金関先生は、週末になると天理と下関を夜行列車で往復する日々が続いた。天理大学の歴史研究会の学生たちも、夏休みなどには加勢した。

綾羅木郷遺跡の発掘調査では、台地南半の全域にわたり、弥生時代の穴倉など多数の遺構が分布していることが判明し、昭和42年(1967年)には、史跡指定による遺跡保存案が模索され、確認調査の結果、台地北半にも遺跡が広がることが明らかになった。研究者や市民からも保存の声があがり、「文化財を守る市民の会」が結成され、募金活動も進められた。しかし、地権者や業者からの同意が得られず、史跡指定の実現に至らないまま、ブルドーザーを前にした緊急調査がなおも続いた。翌年(1968年)夏には台地中央部にまでブルドーザーが進み、ようやく腰を上げた市教委が、台地北半部について文化庁に史跡指定の申請を行い、翌昭和44年(1969年)3月の審議委員会に諮られることになっ

た。ところが、「採掘を妨げる行為があれば、一夜にして遺跡を破壊する」という業者の脅迫は、3月8日の土曜夜半、現実のものとなり、11台のブルドーザーが遺跡の未調査地に侵入して、遺跡を破壊し始めた。「史跡指定を不可能にするために遺跡を徹底的に破壊した。文化財保存より産業開発が優先する」との言い分では、約17,000㎡に及んだ。



写真1 ブルドーザーに追われる発掘調査(下関市立考古博物館/グループSYS撮影)

市民や調査関係者が徹夜でブルドーザーの前に立ちはだかつて遺跡破壊を阻止した未曾有の事件は、報道でも大きく取り扱われ、文化庁から急派された調査官が、破壊された面積が遺跡全体の約20%にとどまることを確認し、審議委員会の承認、長官、大臣の決済、官報の告示という、通常は最低2週間かかる手続きを日曜も休むことなく3日で終え、週明けの火曜、史跡指定書が現地に届けられた。この例外的な緊急措置で遺跡の破壊は止まったものの、打撃を被った業者が損害賠償を求めて提訴し、国分・金関両先生も証言台に立った裁判は昭和56年(1981年)まで続き、下関市が莫大な賠償金と珪砂を埋蔵する市の所有地を業者に提供することで和解成立となった。

高度経済成長期の遺跡の取り扱いを象徴するこの事件は、その後の埋蔵文化財を取り巻く状況に大きな影響を与え、昭和50年(1975年)に文化財保護法が改正されるきっかけとなった。すなわち、市町村など行政機関が独自の発掘調査能力をもつ方向に向かい、また、遺跡地の開発に際しては、事案の原因者が法を遵守して、発掘調査の経費を負担し、「記録保存」に協力すれば、土地に対する権益が守られる体制が取られるようになっていく。金関先生の言葉を借りれば、「行政発掘」が、良くも悪くも始まったのだ。保存された遺跡の隣接地には、平成7年(1995年)、下関市立考古博物館が開館し、出土資料が展示されるとともに、ロビーには、当時の発掘調査の光景が実物大の模型で再現された。時代は流れ、2回目の東京オリンピック・パラリンピックを目前に控えた2018年、史跡指定50



写真2 調査風景の再現模型(下関市立考古博物館)

周年を記念した企画展示「郷台地奇譚 Episode I—文化財保護の金字塔—」が開催され、当時の緊迫した調査の状況がパネルなどの展示で伝えられた。その博物館には、天理大学歴史文化学科考古学専攻(当時)の卒業生、小林善也氏が学芸員として勤務し、金関先生が残したレガシーをしっかりと受け継いでいる。

[参考文献]

伊東照雄・金関恕「下関市郷台地遺跡の破壊と緊急指定をめぐって」『考古学研究』16(1)、1969年。

マリアン・ングアビ大統領

おやさと研究所教授
森 洋明 Yomei Mori

フランスには「シャルル・ド・ゴール空港」や「ポンピドゥセンター」など人名を冠した施設がある。アフリカやアジアなどの少数民族文化が生み出した作品を所蔵するケ・ブランリ美術館にも「ジャック・シラク」の名前が加えられた。コンゴにも同じように、「サヴォルニャン・ド・ブラザ高校」や2代大統領に因んだ「マサンバ＝デバ・スタジアム」、その後を継ぐ大統領の名前を冠した「マリアン・ングアビ大学」がある。

1968年9月4日、マサンバ＝デバ (Massamba-Débat) 2代大統領が辞任した。その後の3カ月は軍の大尉が暫定的に政権を担ったが、それは3代大統領となるマリアン・ングアビ (Marien Ngouabi) への橋渡しであった。停止されていた大統領の権限が復活し、ングアビは1968年12月31日、正式に3代大統領に就任する。奇しくもその日は彼の30歳を祝う誕生日でもあった。独立以来南部出身の大統領が続いたが、彼の出自は北部のキュベット (Cuvette) であり、またこれまでの大統領とは異なり軍の出身であった。

当時のコンゴの人口は約100万人。主な産業はマサンバ＝デバの時代に発展した農業で、とくにコーヒーとカカオだった。また繊維や材木、鉱物、セメントなども輸出産品として期待されていた。植民地時代多くの犠牲を払い負の遺産でもあったコンゴ＝オセアン鉄道は、内陸から沿岸部への物資輸送の重要な手段として活用されていた。公人による汚職は取り締まりの強化で少なくなっていたようだ。初等教育の就学率は95%という高い数値を誇っていた。こうした点においてマサンバ＝デバは、その強権的な手法によって国民の不満をかって政権から失脚したが、独立後の国作りとしてはそれなりに成果を上げたとも言えるかもしれない。

独立後の政権の安定を妨げる原因の一つに、国内に優秀な人材が不足していたことが指摘できるのではないだろうか。植民地時代には、労働者として最低限必要な「読み書き・計算」などの初等教育には力が注がれたが、一部のエリートの養成以外、高等教育にはあまり関心は払われてこなかった。こうしたことが、独立後の国作りにおいて混乱を招く遠因となったとも考えられる。植民地政策の影響は、独立後の社会に深く残っていたのである。

マリアン・ングアビは、1938年に生まれた。初等教育を終えた後、15歳から軍の学校に進み、卒業後は当時フランス領であった中央アフリカで従軍する。また1958年から60年までは、カメルーンで狙撃隊に参加している。その間、順調に軍において階級を上げていき、コンゴが独立した1960年には、フランスで将校としての教育を受けるようになる。そのときの同胞には、後に4代大統領となるジョアキム・ヨンビ＝オパンゴ (Joachim Yhombi-Opango) がいた。1962年、コンゴに戻った彼は少尉となり、ポワント・ノワールに歩兵隊の指揮官補佐という立場に就く。中尉に昇格した彼は、1965年ブラザヴィルに戻り、さらに大尉となってパラシュート隊の司令官となる。そして1968年10月1日、彼は軍の司令官にまで上り詰める。また彼は、当時唯一の政党であった「Le Mouvement National de la Révolution (革命国家運動)」に軍の代表とし

て参加していた。

コンゴは2代大統領から社会主義に路線を舵を切ったが、ングアビ大統領はそれまでの中国寄りからソ連に做った体制に変更していった。企業の国営化を加速させ、大統領就任翌年の1969年12月には「Le Parti Congolais du Travail (コンゴ労働党)」を結成し、単一政党制を進めていく。同時に新たに憲法を制定し、国の名前をそれまでの「コンゴ共和国」(République du Congo) から「コンゴ人民共和国」(République populaire du Congo) に変更、国旗もそれまでの三色旗(緑・黄・赤)から、赤色を基調とし労働のシンボルとして農具や工具が描かれたものに変えた。さらに国歌に関しては、旧宗主国との繋がりを重視したユールー初代大統領が失脚する原因となった出来事の名前に由来した「Les Trois Glorieuses (3日間の栄光)」に変更された。

しかし、国が政治的にマルクス・レーニン主義を押し出していく一方で、経済的には西側との関係が切れない状況が続いていた。とりわけ、この頃に大西洋の沖合に発見された油田の開発に関しては、フランスのエルフ・アキテーヌ社やイタリアのアジップ社がその開発を担うようになっていた。

さらに、政治的には不安定な状況が続いた。軍の組織が再編されると独裁的な裁判所が設置され、クーデターの疑いで大統領の政敵に終身労働や死刑判決が下された。例えば、マサンバ＝デバやその配下にいたベルナル・コレラ (Bernard Kolélas) も大統領退任後に逮捕され、その後釈放されたのだが、クーデターの疑いで再度逮捕されたり、証拠不十分で釈放されたりという状況にあった。また、1969年6月にはクーデターの疑いで17人が逮捕されるなど、国政は安定しなかった。その後もクーデター未遂事件は相次ぎ、なかにはCIAの関与や、当時周辺諸国で唯一西側に汲みしていたザイル共和国のモブツ大統領の裏工作が疑われるものもあったようだ。殺害されたクーデター首謀者の遺体が放置されたり、街中に引き回されたりしたこともあったという。こうした政情不安が続くなか、1977年3月、遂にングアビ大統領自身が暗殺される事件が起きるのだった。

このングアビ大統領の後継を自認し国をリードしていくのが、ドゥニ・サス＝ングソ (Denis Sasou-Nguesso) 現コンゴ共和国大統領である。昨今、ブラザヴィルの北方キンテレ (Kintélé) 地区に、新たに大学が設立されようとしている。マリアン・ングアビ大学をはるかにしのぐ広大な敷地に大きな校舎がいくつも建設されているが、まだ開校には至っていない。ただ、名前だけはすでに「サス＝ングソ大学」と決まっている。



キンテレ地区に建設途中のサス＝ングソ大学 (2018年)

東京神田の天理ギャラリーにおいて本年2月22日(土)から4月4日(土)まで天理ギャラリー第169回展として「こけしⅡ-遠刈田と土湯、中ノ沢-」が開催される。天理ギャラリーは、ゴールデンウィーク頃に天理図書館、秋と春先に天理参考館が館蔵品を展示する施設で、入館無料となっている。東日本の人々にも両館に収蔵されている稀覯書や貴重な資料の数々を観覧していただきたいという趣旨から1962年に開設された。東日本大震災から9年を迎える今年の展示担当者として、古来豊かな文化を育んできた東北地方、この美しい地域の復興を祈念して私はこけしを取りあげた。これに関連して、天理に関係の深いこけしとその作者を紹介したい。

今でも家の中を見渡せば1本ぐらいこけしをお持ちの家庭も多いのではないだろうか。国民的番組となった「おしん」でも銀山温泉で母に買ってもらった古びたこけしが序盤に登場して、その後の展開の伏線となっている。こけしは豊かな森林資源を有する東北地方を代表する木の郷土玩具である。その起源は諸説あるが、江戸時代に木地師が湯治場のみやげものに作ったのが始まりではないかと言われている。丸い頭と円柱形の胴のみという簡潔な形状だが、東北六県に分布する産地毎に伝統的な約束事があり、それぞれ個性的だ。その個性を、産地特有の、師弟間で継承されてきた技法のつながりごとに分けて「系統」と称する。その系統のうち、2008年に開催した天理ギャラリー第133回展「こけし」では、ともに宮城県鳴子系こけしと弥治郎系こけしを紹介した。今回「こけしⅡ」と題したのは「第2弾」の意味を込めている。

前置きが長くなったが、今回紹介したいのは福島県土湯温泉で作られた土湯系こけし(図1)である。こけし製作者を「工人」と呼び習わすが、このこけしは阿部治助工人(以下、治助と称する)の手による。治助は明治18年、土湯温泉で木地業を営む家に生まれた。3男6女の第5子で、口数少なく真面目な性格だったと伝わる。大正元年に結婚して3人の子どもにも恵まれたが、妻を含めいづれも自分より早く亡くなるという不幸に襲われた。土湯は災害の多い土地で、会津と江戸を結ぶ交通の要衝として往古より栄えたのにもかかわらず、古いこけしや文書が失われている。天明の飢饉、たび重なる水害や大火、戊辰戦争による村の焼失などに土湯の人々は堪え忍んだ。治助はもともと日蓮宗徒だったが、家族の不幸や川の氾濫による水害が重なって天理教を信心するようになった。熱心な信仰で有名で、昭和2年の土湯の大火で治助の家が全焼したとき、燃え盛る家の中で「南無天理王命」とひたすら唱えているところを間一髪救い出されたという。そのころ、こけしが脚光を浴びようになり、熱心なこ



図1：遠くを見つめるような表情の治助のこけし。高さ25.2cm

けし蒐集家が東北各地を回るようになるが、治助にとってはそれも禍となった。別の工人が作った個性的なこけしが治助作と誤って伝わり、さらに「阿部治助の化けて出そうな薄穢い怪奇魅力」と武井武雄が『日本郷土玩具 東の部』(昭和5年刊 地平社書房)の「福島県」「土湯のこけし」項で紹介したため、不運にもその評価が固まってしまった。今日のようなメディアも少なく、実際に作品を目にする機会も限られた時代のことである。先駆的なこけし研究家であった深沢要(ふかざわかたね)でさえ「阿部治助の不健康な表情のこけし」(『こけしの微笑』昭和13年刊 昭森社)と切り捨て、巷の「下手の治助」など散々な酷評にも治助は堪えた。抗弁せず、無愛想で寡黙な人柄が誤解を増幅させたのかもしれない。図1の通り、治助のこけしは決して「薄穢」くも、「不健康」でもない。その後、「薄穢い」と冷淡だった武井は治助のこけしを実際に見て、「阿部治助の真作を見るに及んでは、(土湯の)覇権は治助への感、筆者は頻りなるものがあります」と評価を一変させている。昭和17年になると「現在の土湯こけし中最も素朴優雅なもの」(菊楓会同人編『古計志加々美』昭和17年刊)とようやく正当な評価を得られるようになったが、そのころには治助はこけしを存分に作れない身体になっていた。竹久夢二は治助のこけしを気に入り、昭和7年から8年にかけてのヨーロッパ旅行にも持参した。非凡な表現者として相通じるものがあつたのかもしれない。今日でも愛好者が多く、「1本選ぶとしたら治助のこけし」と賞せられ、評価は高い。

図2は一人息子金一のこけし。昭和16年結婚後、署名したこけしを蒐集家に送るようになったので、そのころのこけしと思われる。治助よりいたずらっぽい表情で愛らしい。治助を継ぐ工人として将来を嘱望されながら昭和20年に肺結核のため世を去った。27歳で亡くなったため、こけしは多く残っていない。治助の悲しみはいかばかりであつたろう。しかし、不幸なことばかりではない。はじめにこけしは「産地特有の、師弟間で継承」と述べたが、親子で引き継がれる例は案外少ない。阿部家は、治助、金一、敏道、国敏工人へと血脈をつないでいる。今回は、現在の土湯こけし工人組合長でもある国敏工人に会期中こけし製作実演をお願いした。天理ギャラリーに陳列された祖父、曾祖父のこけしの前で木地を挽く姿に、治助もそのこけしに似た微笑を浮かべることだろう。

図2は一人息子金一のこけし。昭和16年結婚後、署名したこけしを蒐集家に送るようになったので、そのころのこけしと思われる。治助よりいたずらっぽい表情で愛らしい。治助を継ぐ工人として将来を嘱望されながら昭和20年に肺結核のため世を去った。27歳で亡くなったため、こけしは多く残っていない。治助の悲しみはいかばかりであつたろう。しかし、不幸なことばかりではない。はじめにこけしは「産地特有の、師弟間で継承」と述べたが、親子で引き継がれる例は案外少ない。阿部家は、治助、金一、敏道、国敏工人へと血脈をつないでいる。今回は、現在の土湯こけし工人組合長でもある国敏工人に会期中こけし製作実演をお願いした。天理ギャラリーに陳列された祖父、曾祖父のこけしの前で木地を挽く姿に、治助もそのこけしに似た微笑を浮かべることだろう。

〈図はすべて天理参考館蔵品〉



図2：茶目っ気のある表情の金一のこけし。治助の墨ろくろ線より重く、波線が軽やかではない点で両者を見分ける。高さ22.5cm



阿部国敏工人

法王念願の日本訪問

フランチェスコ法王は、古い伝統を有すると共に近代科学技術国家である日本を自分の目で確認するのが若い頃からの夢だった。このたび、32回目の司牧の旅として、2019年11月下旬、タイと日本を訪れた。両国ともカソリックの広布率は1%以下で、カソリックの伝播としては両国とも後進国に属する。それゆえ、現法王はカソリックの長として、両国の土を踏むのではなく、一伝道師になって両国の土を踏む思いで出かけた。

法王は11月23日夕刻、タイから羽田空港に到着した。翌日からは分刻みの日程で、高齢の法王の体力がよく続いたものだ。翌24日早朝には、長崎行き飛行機の中にいた。長崎ではカソリック関係の人々に会い、隠れキリシタンに関係する教会を訪ね、また一般公開ミサを行った。法王は、これらのことに関してよく勉強しており、またヴァチカンで行われる毎週日曜日のアンジェルス講話の中で、長崎や広島原爆のこと、長崎の隠れキリシタンについて述べたこともある。

長崎では核爆弾の使用を糾弾したが、その日の夕方には、世界最初の原爆被害地の広島に移動していた。広島はもう暗くなっており、原爆ドームをよく眺めることもできなかった。平和公園では、日本の各宗教の代表者と握手を交わした。広島での講演でも核爆弾について糾弾。日本に投下された原爆は人類に対する挑戦でもあると宣言した。そして夜遅くに東京へ戻った。

25日には、2011年の東日本大震災の被災者たちと面会して激励し、その後で安倍晋三首相に会い、天皇にも謁見している。法王はこの時、核開発について言及。エネルギー源としての核開発という道は、福島原発事故からも分かるように、将来性がないと述べた。

東京スタジアムでの一般公開ミサには5万人の人が集まった。これには日本のカソリック信者のみならず、近隣諸国のカソリック信者や日本の異教徒の人たちも数多く参集した。法王は若者について、若者は明日を夢見て進まねばならないと発言。近代国家日本に、なぜ自殺が多く、“ひきこもり”や“いじめ”が多いのだろうかと問いかけた。

日本滞在最終日の26日には、イエズス会の大学、上智大学を訪問した。法王もイエズス会の会員の一人だ。上智大学の総長を務めた後、ローマに戻ってグレゴリアン大学の総長になり、さらにヴァチカンの教育省長官となったピタウ大司教は定年後、再び東京に戻り、そこで人生を全うした。法王は、このことを、日本の国としての良さと日本人の人間性の高さ由来すると評価した。

法王、プレゼーピオ (presepio) の発祥の地へ

法王の名前の由来になった聖フランチェスコは、かつてイタリア中部のリエティを訪れた際、その近くのグレッッチョの街で、サビーニ山脈に沿った奥行き700メートルの洞窟を見つけた。彼は、その一番奥の壁に、ルネサンス初期の画家ジョット風のキリスト誕生場面を描かせた。これが、1223年にできたイエスの誕生を祝う飾り物であるプレゼーピオの元祖だ。2019年12月1日そこを訪れた法王は、「プレゼーピオを通して、イエスは色々と訴えている。人間は兄弟の世界を目指して進むべきだ。そこでは、誰も排除されないし、隅に追いやられること

もない」と述べた。また、「プレゼーピオを作ることによって、小さい時から、両親や祖父母を通して、この喜ばしい出来事を、楽しい思い出を生涯持ち続ける」、「小さい時から神の子の貧しさを感じ、貧しさに触れることで、蘇ったキリストに会えるし、兄弟に慈悲の思いを持つことができる」などと語った。

献納金が投資金に回った

法王への献納金は、毎年6月29日の聖ピエトロ・パオロの日の前後に、末端からカソリック共同体を通して献納されるが、その額は年々減少している。2013年には84億円から96億円あったが、今では60億円ぐらいだ。決算報告書の類は皆無のため詳細は明らかではないが、法王庁とヴァチカン国にある財産は、一説には840億円を超えているという。その金は主にヴァチカン市国の管理、修理、運営に使われている。支出は年間あたり約132億円ほどである。そこには、債権の購入、不動産の購入、学校教育なども含まれ、さらに世界中の教会、学校、病院などにも支出されている。

法王への献納金はヴァチカン市国の国家秘書室が管理している。2013年より現枢機卿でローマ法王の秘書役ピエトロ・パロリンが長となっている。その下で、2011年～2018年までアンジェロ・ベッチュー (現枢機卿)、現在は2018年10月よりヴェネズエラ出身のエドガー・ペーニャが業務に携わっている。

すべての不測の歩みは2012年に始まった。ベッチューは以前アンゴラのヴァチカン大使を務めていた。その間、現地の投資家アントニオ・モスキートと友達になった。彼からベッチューは2億ドルをファルコン・オイルに投資するように勧められる。交渉の結果、ヴァチカンは投資家の一員となった。わずか5%の投資比率だったが、最終的にこの投資はうまく行かなかった。

次に、ロンドンに居住する財政家で、イタリア人のラファエレ・ミンチョーネが登場する。これには、法王への献納金の管理を任されているスイスの信用金庫が関与している。ミンチョーネはヴァチカンの銀行業務を担当するクラッソ秘書官に言った。「あなた方は、銀行に預けてあるお金を倍にしたいか。もし、そうならば、私が持っているロンドンの中心街にあるビルを購入したらどうだ」。そのビルはかつてハロッズの本部でもあった建物で、場所はスロアン・アヴェニュー60番地だ。ヴァチカンはミンチョーネが管理していた2億円の使用を彼に任せた。しかしこの金額ではビル全体の45%しか購入できない。残り55%を補うために、ジェノヴァ貸付銀行、レトリト銀行やタス銀行を使用した。その間にビルの値段は上がっていった。そこへイギリスのEU離脱問題が出てきて、さらに値が膨らんだ。

このようにして、ヴァチカンはこのビルに大金を払い込む不覚を犯してしまった。そのあと、仲に入った人間が悪かった。その名前はジャン・ルイジ・トルツイ。彼はロンドンに住むイタリア・モリザーノ出身のブローカーである。ビルは2018年11月23日ミンチョーネからルクセンブルグの会社グットウ (GUTT) の所有に変わった。2019年5月には、さらに新しい会社のものになってしまった。ヴァチカンはビルを所有するために、トルツイに12億円、ミンチョーネに48億円を払い込み、他にも支払いをせざるを得ず、結局ヴァチカンの利益はゼロになってしまったのである。

第 327 回研究報告会 (11 月 29 日)

「教学における『からとにほん』理解の展開と課題」

天理教校
遠藤正彦

「おふでさき」の中に「からとにほん」という言葉が記されている。この言葉を検討しようとする際、問いの立て方として二つの方向性が考えられる。一つは「からとにほんとは、何か」ということであり、もう一つは「何故、からとにほんなのか」と問うことである。前者については、主に戦後の教学的展開の中で『おふでさき附註釈』の解釈が一つの到達点を示していると考えられる。一方、後者のアプローチは上田嘉成『「おふでさき」に於けるにほん・から・てんじくに就いて』（『復元』22号所収）を嚆矢とし、その後、ほとんど展開されないままになっている。このことが課題の一つではないかと思われる。上田論文において「からとにほん」、特に「にほん」はその原義に遡って検討され、「全く一般語としての域を脱して、天理教独特の述語、言うならば神用語と成つて居る」というプロセスをたどることで「からとにほん」の理解をより深めていく。今回の発表では上田論文のアプローチをふまえ、加藤典洋による「日本人」及び「日本」理解の方法を補助線としながら、「何故、からとにほんなのか」という方向から教学的理解を展開していくことを試みた。

第 328 回研究報告会 (12 月 6 日)

「ヌン族の華人と中越国境地域の神々」

天理大学国際学部教授
芹澤知広

本報告はベトナム華人社会の宗教現象についての民族誌的・歴史的研究の一部である。ホーチミン市の華人社会では「唐話」といわれる広東語が共通語になっており、「華人」のことを広東語で「唐人」という。その唐人に、「海防話」と呼ばれる独特

の広東語を話す人々がいて、彼らは「海防人」と呼ばれており、ベトナムの研究者は彼らを「ヌン族の華人 (Hoa Nùng)」と呼んでいる。彼らは、現在のベトナム北部のクアンニン省に 1946 年に成立したヌン自治区から、1954 年にベトナム南部へと移住した人々とその子孫である。ヌン族の華人がベトナム南部で祀る神格には、彼らの故地である中越国境地域に由来する神々が含まれている。中心的な宗教施設である「護国観音廟」には、観世音菩薩の他に、クアンニン省の役人「案首公公」と、ベトナムの反乱を鎮圧した中国の將軍「伏波將軍」が対になって祀られている。また土地神は「社王」という名称で祀られている。

宗教研究会を開催 (12 月 21 日)

「20 世紀前半の中国ムスリムに対する欧米キリスト教宣教師の活動」

日本学術振興会特別研究員 PD (中央大学)
ウズベキスタン共和国科学アカデミー歴史学研究所客員研究員
海野典子

19 世紀中葉、欧米列強との戦争に敗れた清朝が結ばされた不平等条約によって布教保護権が承認されると、欧米のキリスト教宣教師は本格的に中国での布教活動を開始した。特に、中国内陸部での布教を重視した英国の中国内地宣教会や、対ムスリム宣教の必要性を主張した米国の移民交友会によって、漢語を話すムスリムに対しても組織的な宣教活動が展開された。本報告は、20 世紀前半の中国ムスリムに対する欧米のキリスト教宣教師の活動について、以下 3 点を指摘した。第一に、宣教師たちはイスラーム教義を批判し、ムスリムの生活習慣や信仰を尊重しなかったため、多くの場合反感を買った。第二に、ムスリム知識人のなかには、宣教師からの批判を受けて中国イスラームの現状を反省し、教育改革を試みる者もいた。第三に、ムスリムと友好的な関係を築いた一部の宣教師が残した記録や史料は、当時の中国ムスリム社会の諸相を克明に伝えてくれる貴重な資料である。

『グローバル天理』年間購読のご案内

原則的に新年度は 1 月号からとなっております。購読料については、送料のみの実費負担です。申し込みは、封書、FAX、メールでお願い致します (お電話での申し込みはご遠慮下さい)。毎月の希望冊数と、氏名 (フリガナも)、郵便番号、住所、電話、FAX、E-Mail、職業をお知らせ下さい。申し込み受付後に振込み用紙を送付致します。切手・現金でのお支払いはご遠慮くださいますようお願い致します。振込みを確認後、発送させていただきます。

送料 (ヤマト運輸 DM 便)

全国一律 167 円 (角 2 封筒、重さ 1 kg [約 20 冊] まで)

【例】毎月購読 167 円 × 12 カ月 = 2,004 円

問い合わせ先:

〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050
天理大学 おやさと研究所 「グローバル天理」編集部
FAX 0743-63-7255
E-Mail: oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

本文関連行事のご案内

天理ギャラリー第 169 回展
「こけしⅡ - 遠刈田と土湯、中ノ沢 -」

【会期】2020 年 2 月 22 日 (土) ~ 4 月 4 日 (土)

【開館時間】午前 9 時 30 分 ~ 午後 5 時 30 分

(入館は午後 5 時まで)。日曜休館。入館無料

【アクセス】

JR (神田)、東京メトロ銀座線 (神田)・千代田線 (新お茶ノ水)・丸ノ内線 (淡路町)、都営地下鉄新宿線 (小川町)
下車徒歩 10 分

【主催】天理ギャラリー

〒 101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-9 東京天理ビル 9 階 TEL 03-3292-7025

【協力】

一般社団法人日本人形玩具学会 / 東京こけし友の会 / 青葉こけし会 / ふくしまこけし談話会 / こけしと語る会

こけし製作実演

2 月 22 日 (土) 土湯系: 阿部国敏 工人

3 月 20 日 (祝) 遠刈田系: 佐藤正廣・康広 工人

両日とも午前 10 時から午後 5 時まで

2019（令和元）年度「教学と現代」

“佐藤「元の理」学”の世界

日時：2020年2月25日13:00～15:30

場所：天理大学研究棟3階第一会議室

* 第一会議室へは、研究棟の北側の自動ドアから入り、エレベーターで3階に行き、右側へお進みください。

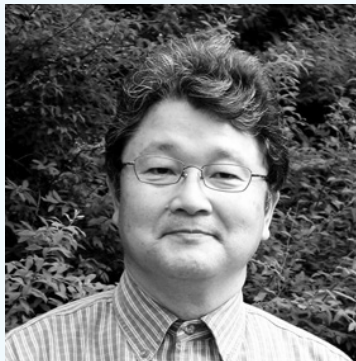
【開催趣旨】

佐藤孝則教授は生物学・環境学の研究を通じて、天理教の教えの根幹である「元はじまりの話」に登場する、神名を授けられたさまざまな水域棲生物を学術的に同定して、佐藤「元の理」学ともいえる学問的境地を開拓されました。

「元の理」については、例えば哲学の人間学からの蔵内数太先生の研究、民俗学からの吉野裕子先生の研究、また幅広く学際的な井上昭夫先生の研究などの、多彩な研究がなされてきています。これらの諸研究は、蔵内「元の理」学、吉野「元の理」学、井上「元の理」学とも呼んでもよいほどの学問的境地を有しています。これら「元の理」学の系譜の上であって、佐藤「元の理」学は、自然科学的なエビデンスを踏まえた独自の境地を開くものであります。

2019年度「教学と現代」は、佐藤「元の理」学の全体像について、佐藤教授ご自身から、これまでの長年にわたる研究の成果を踏まえてお話をいただくことにしたいと存じます。

なお今回の講座は天理大学における佐藤孝則教授の最終講義でもあります。ご関心のある方々のご参集を、ぜひお待ちしております。



佐藤孝則
おやさと研究所教授

13:00～13:05 開会挨拶 堀内みどり主任
趣旨説明 金子昭研究員

13:05～14:45

講演 佐藤孝則教授
『「元の理」の自然科学的考察と今日的意義』

14:45～14:55 休憩

14:55～15:25 質疑応答

15:25～15:30 閉会挨拶 永尾教昭所長

事前のお申込みは不要です。お車で越しのさいは研究棟東側に駐車場がございます。

天理大学おやさと研究所 2020年度公開教学講座

事前予約不要
来聴無料

信仰に生きる 『逸話篇』に学ぶ（6）

第1回：4月25日（土曜）	永尾教昭所長	75	「これが天理や」
第2回：5月25日（月曜）	佐藤孝則研究員	77	「栗の節句」
第3回：6月25日（木曜）	岡田正彦研究員	88	「危ないところを」
第4回：9月25日（金曜）	澤井真研究員	93	「八町四方」
第5回：10月25日（日曜）	八木三郎研究員	106	「蔭膳」
第6回：11月25日（水曜）	堀内みどり主任	103	「間違いのないように」

場所：天理教道友社6階ホール
時間：午前10時～11時30分

*お車でのご来場はご遠慮下さい。

グローバル天理
第21巻 第2号（通巻242号）

2020年（令和2年）2月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 永尾教昭
編集発行 天理大学 おやさと研究所
〒632-8510 奈良県天理市袖之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan